

## 死亡災害に歯止め！ “笑顔の一年に”

皆さまには、新たな年を清々しい気持ちで迎えられたことと思います。私たち、日本人は四季を大切に、節目節目に心の持ちようをリセットしています。

新年を迎え、神々にその年の願い事をし、自らの誓いを立て、気持ちを切り替えることも大切な事始めといえるかもしれません。初詣の願い事は、それぞれでしょうが、多くの方がまずは一年の健康と家内安全をお祈りされたのではないのでしょうか。同様に、私たちがめざす「職場原点の好循環」は、健康と安全を基軸とした取り組みです。

ところで、年末に帰省した際、突然の訃報に接し葬儀に参列しました。62歳現役の先輩です。年忘れの会をしている最中に不調を訴えられ、そのまま帰らぬ人となりました。突然の死は、奥様、ご子息含め何も語れず、伝えられず、ご本人の心残り、そしてご遺族の寂しさは察しようもありません。胸が痛むばかりです。

人ひとりの命の尊さを常に訴えています。基幹労連においては、働く場所で命を失っている方々が、ここ数年、年間20人を超えているのです。昨年は、各労使の真摯な取り組みで、その数こそ減りはしたものの、未だ19人もの尊い命を失っています。

あらためて、考えてみてください。19人の皆さんには、それぞれの家族があります。多くの職場の同僚、仲間がいます。故郷の幼なじみ、同級生・無二の親友がいます。言葉には到底言い表せない無念と、筆舌に尽くしがたい悲しみ、心の痛みは拭い去れません。亡くなった仲間たちには、新年を迎えるどころか、明日もなくなったのです。

自らに置き換えて死亡災害の事象とその後の身の回りの出来事を考えてみてください。想像もし得ないほど、つらく・苦しい思いが込み上げて、胸の張り裂ける思いになることは間違いありません。

新年早々、辛い話をあえてさせていただくのは、死亡災害の連鎖を断ち切る、みんなでその思いを共有し、常に自らのこととして、あらためて「守り・守らせる」行動を誓い合いたいからです。

『ご安全に』の声掛けは、仲間の「安全と健康を願い、自らの誓い」を込めた挨拶、それにあわせ、企業ごと、職場ごとに、ゼロサインやピースサインであったり、敬礼であったり、形で示す行動でも互いの安全を誓い合っています。形がなくとも、仲間の肩にそっと触れ、“ごあんぜんに”・・・。きっと思いが通じるはずです。

死亡災害の連鎖に歯止めをかけ、みんなで笑顔の一年にしていきましょう。

ご安全に

2016年1月12日  
日本基幹産業労働組合連合会  
事務局長 神田 健一